ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なび

5月号
vol. 099

特集：都市のインフラ

人がまちにやってくる

When The Someone Go Marching In

特集：都市のインフラ

人がまちにやってくる

When The Someone Go Marching In

GO まち ING ―― 昭和町

例えば、お昼に入るお店。どこにするかを選ぶときの決め手は、友だちの口コミだったり、ネットの情報だったりします。服を買うときも、髪を切るときも、お店や商品のことを聞いたり調べたり、あるいは知っているなど、「情報」が足を運ぶきっかけになることはきっと多いはずです。そこで、多くの人に知ってもらえるようあの手この手の「宣伝」がうたれます。それは就職先を決めるときも、アパートを借りるときも同じで、「企業」や「市場」の宣伝によるところが多いのではないでしょうか。働く街、暮らす街を選ぶのに、それだけの情報で決めていることにちょっとした不安を感じました。では、街を選ぶきっかけになるもの、つまり街を宣伝するとはどういうことか？　そんな動きの一端を感じられる取り組みが、最近増えているみたいです。その一つが地域イベント。楽しみ方そのものが情報となり、街の価値として広がりだすと、人がまちにやってくる動きにつながるはずです。

1 街をつくる、街に気づく

前回は、大正のまちを舞台にしたリノベーションのムーブメントについてレポートした。そのとき感じたのは、街を自分たちで「変えていく」ことの大切さだった。今回は、西成区の東隣、阿倍野区の昭和町をレポートする。10年目を迎える地域イベント「どっぷり、昭和町。」を取り上げながら、自分たちでまちを「楽しむ」ことに目を向けてみよう。

「どっぷり、昭和町。」は、2006年に始まった地域イベントである。イベントとしてもいろんな特徴があるなか、まずは昭和町がどのような街なのか、知るところから書き進める。

昭和町は名前の通り、昭和の時代と深く関わっている。昭和に入る前後に「都市計画」によりつくられた街だ。「都市計画」は、一般的とは言わなくてもきっと聞いたことのある言葉であろう。現在、都市はこれら計画によって整備されたり、更新されたりしている。この都市計画の歴史は古い。例えば城下町では、城を中心に掘などをつくり、町人や侍、商人が暮らし集う区画を整えていく町割りを行った。また、商人が集まり力をもち始めると、新たに道や水路、市場などをおこしたりもした。城主のような大きな権力や商いなどの民の強い力で都市は計画され、発展もしてきた。この都市計画は、近代に入ると行政という公が担うようになる。それを法律として定めたのが現代の都市計画法である。

昭和前後、当時、大阪は「大大阪」とも呼ばれ、発展の一途をたどっており、人口が爆発的に増加し、都市は拡大していく。住宅の整備や環境の悪化など社会問題も出てくるなか、都市の将来としてあるべき姿を示した「都市計画」をベースに、法律に基づきつくられた街が、昭和町の界隈である。

当時の先進的な手法も取り入れながらつくられた街は、今でもその特徴が活きている。例えば、大阪は密集市街地が多く、区画も狭く込み入っている。昭和町は碁盤目状に整備されただけでなく、一つひとつの区画がゆったりとつくられている。その結果、当時主流の木造長屋の住宅も、前庭や中庭がついたり、玄関口

を広く設けたり、洋館を付け加えた長屋などが出てくる。屋根の形や建物の意匠も豊かに施され、これから発展していくまちを予感させる街並みが築かれていく。その長屋や街並みは今でも残り、昭和町の魅力として息づいている。

また、その当時から社会の動きを変えた自動車への対応もいち早く行われた。住宅街への進入時にゆっくりと車が進むよう、あえて道をくねらせた街路設計も行われる。池を活かした緑豊かな公園も憩いの場として定着している。

2 街を楽しむ遊び心

さて、そんな街のことを知っている若者はどれほどいるだろう？ 若者だけでなく、この街で暮らす人、働く人、遊びに来る人が、今も進行しながら歴史を積み重ねている街のことを知る機会は、ちょっと少ない気がする。しかし、その機会はふとしたときに現れるものでもある。

昭和町の長屋は、10数年前は、今ほど注目されていなかった。住宅としては更新の時期に差し掛かり、古い建物はお荷物として捉われていた。駅前などはマンション開発、奥に入った場所では駐車場に姿をかえた長屋も多い。街が次第に変わろうとしているなか、外から来た若い人たちの目にとまったのは、新しい建物ではなく長屋だった。見慣れない長屋に興味を示し、そこでお店を開くちょっとした兆しが出てきた。最近では、各地で長屋ブームをよく見かけるようになったが、ここ昭和町もいわゆる「よそ者、若者、バカ者」と言われる動きに、今までの固定概念を変えるきっかけを得たのである。

変わる兆しをもうひと押ししたのは、その若者たちの一つの想いである。自分がおもろいと思った長屋を、もっと知ってもらいたい。とにかく魅力的なのでみんなと共有したい。そして、その良さを確かめたい。そんな若い人たちの長屋に向けられた好奇心が、何かできるのでは！と突き動かしたときに生まれたのが「どっぷり、昭和町。」である。前庭や軒先にぎっしり露店が並ぶとおもろい！とか、大きく窓が開く二階からライブをやると盛り上がりそう！ など、長屋に遊び心をくすぐられながらイベントを起こしていった。

多種多様な地域で活動する人たちと出会うことができた。

3 若者から地域へ

一つひとつの長屋を楽しんでいくと、他にも魅力的な街の物件が見えてくる。それは、公園であったり、池であったり、商店街であったり、学校であったり。次第に広がって、10回目となる今年の「どっぷり、昭和町。」は、7つのエリアで開催される。関わる人も増え、その楽しみ方もてんこ盛りだ。この間、若者から始まったイベントが街のいろんな場を巻き込み、「地域」へと広がる「イベント」として多様化し、総合化されていく。

当初、長屋で好きで始めた若者たちが思いっきりその楽しみ方を試した時期からすると、イベントが大きくなるにつれ「やりたいこと」と「やる人」のギャップも生まれてきている。多くの人が関われば関わるほど、一人ひとりの街への想いは一筋縄では束ねられない。それはイベントで何ができるのか？ 何のためにやるのか？ という問いにも重なる。

例えば、イベントは楽しいものと捉えられがちだ。それは、楽しむ人、場、そして街があるから成り立つのだが、イベントという言葉にはできて当然という響きが含まれるのではと思う。それが特に大きく見えるイベントほど顕著で、楽しくて当たり前という見えざる責任が漂っている感じがする。

「どっぷり、昭和町。」でも、関わりたいという人が増えると期待感は膨らんで、それを受け止める主体は大きな荷を担うことになる。そこで街として、場として、人として分担できればいいのだが、その市民活動とも言える仕組みづくりは難しい。主体が実行委員会にしろ、行政にしろ、あるいはイベント会社にしろ、まだまだ「やってくれる」という地元の外からの感覚は根強い。地域のチカラをつないで形にしていく共同体がいかにできるか、イベントを通じた取り組みの課題である。

もう一つの突破口は、街そのものの発信＝宣伝にあると思う。街の楽しみ方をイベントが媒介することで、多くの街の人たちが行き交うようになる。そこから楽しいイベントとしての顔でなく、街を楽しんでいる人としての顔―実際の企画・運営者―が見えるようになれば、「地域」で取り組む「イベント」として主体が育つのではないだろうか。見方を変えると、それがもう一つの地域コミュニティの選択肢にもなりうる。楽しむイベントからいかに変化できるか、今がそのときを迎えている。

4 それぞれの街でできること

今回、「どっぷり、昭和町。」のメンバーとして3年ほど関わってきたなかから、イベントと街の関係を探ってみた。イベントでは、地域の20代から70代までいろんな層が企画や運営の中心メンバーとして動き、お店や企業が協賛金を出し合い、会場の協力や地域の既存団体との関係として町会、PTA、公園愛護会、商店街組合などともつながりながら現在に至る。まだ、出発点の長屋については、一つの物件としてだけではなく、街として長屋のことを考えている不動産業者が地元でじわじわと成長している。次は、大家との関係を広げていきたい。お店として、住まいとして長屋を選択するひと押しになるだろ。

そんな昭和町だが、どちらかというと地味な街というか、トップバッターではない。大阪で長屋ブームと言えば、中崎町や空堀などが真っ先に挙がってくる。大阪出身でも、昭和町に長屋？と思われる方もまだ多いのではないだろうか。悪い意味ではなく、トップバッターが背負う緊張感とは違い、力を抜いて打ち出せる自由さ漂う。かっこつけすぎず、おもろいことをやる気質みたいなものを感じられる。いいバランスで外から来た若い人も、地元の若い人も、そしていろんな世代の人も、地域を楽しんでいる街である。この雰囲気を維持するのは、地元重視の町会や自治会といったコミュニティでは難しいのではないか。そこで機能したのが「イベント」だとすると、次のステップとして「地域イベント」として果たす役割を考え直してみたい。

レポート：平川隆啓

大阪の南、西成とその周辺の味わい深いまちの魅力を掘り下げつつ、地図に重ねていく「サウスオブミナミ」。雑多なカルチャーの集積地サウスオブミナミの深層にちょっと触れながら地図を描いていきます。

サウスオブミナミ

特集と連動！ 昭和町のまち歩き編

西成※から自転車で10分ほど走ったところに昭和町はあります。自転車を降りて、ゆっくり長屋が残る住宅街を歩くと、他にもいろんな街の表情が見えてきます。

今回は、ちょっと視点を変えて、街の「なんだこれ？」を「どっぷり、昭和町。」のメンバーで集めてみました。

※西成区役所から

漬物たるファーム

長屋の前庭や中庭、玄関口などの植栽も楽しみの一つ。さらにあふれ出して、ここは漬物だるを利用した菜園が。路地の緑は豊かです。

木塀の表情

木は、木目の表情や風化でいい味わいがでてきます。家や塀などに使われている木をめでながら街並み散策。

作品募集中

元たばこ屋さん。ちょうど額のようになっている枠は、そのまま絵や写真などを展示できそう。

我が家の跡

長屋の壁の跡がそのまま隣の家に残っていました。長屋も魅力的とは言いつつも、長屋も駐車場になったり、建替えられたりして数を減らしています。

路地にジャンプ台

路地は歩くのに最適。自動車にはちょっと気を付けてもらっています。家にぶつからないよう置かれた石を見つけると、上に立ってジャンプしたくなるかも！？

猫まっしぐらできない

昭和町の長屋裏には背割りでつくられた水路用の細い空間があるのが特徴です。猫にはちょうどいいお散歩コース。でも、ここはネコが歩けないトラップが！

あみだくじ

煙突といえば銭湯。ここは玄関口の前庭にある大きな桜が名物です。この煙突、よーく見るとあみだくじのようなひびが模様になっています。

四連富士日の入り

屋根のカタチもいろいろ。当時の大工さんたちが腕を競ってつくった長屋は豊かな街並みを生み出しています。

アンパーンチ

なぜか鉢植えにさした棒の先に軍手が。いろいろ土いじりをしたあとに、ひょいと置いたのかな？

夏への扉

ちょっと初夏を思わせるような青い扉。おしゃれな家がたくさんあるのも昭和町の魅力。ここ北畠住宅は、大正後期につくられた住宅です。

射的名人

空き缶を積み上げて置いているだけ。でも、なんとなく射的をしたくなりませんか！？

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。
多様につながる実践を紹介していきます。

ナイスな仲間たち

VOL.14

ナイス地域開発事業部

まちに密着したリフォーム屋から、まちを再生する建築・不動産屋へ

97年のナイス設立当初から、住宅リフォーム事業はナイスの事業の柱で、現在本社を置く増井マンション（ますみ荘）の建替計画に、本格的に取り組んだのも同じ年でした。職人探しやドブ板営業など地域密着でリフォーム事業をゼロから立ち上げ、現在は住宅のリフォーム、介護保険によるバリアフリー工事、施設や店舗の修理・営繕などのお客様がつきました。

06年に自社マンション『ブランコート』を建設したのが第2ステージの始まりです。地域の社会福祉法人の協力を得ながら、オルタナティブな住まいの選択肢の提供を目指して居住環境にこだわったマンション建設や物件管理運営など、住宅管理事業を広げてきました。現在建設中で、12月に竣工予定のパークコート（仮称）は大きな借入・投資物件としてはおそらく最後です。ナイスが建設し、社会福祉法人が高齢者向け住宅部分をサブリース。教育事業や隣保館事業などのテナント事業も固まってきました。

地域開発事業部の第3ステージは『マンション開発によるまちづくりへの挑戦』から、人口減少時代での『住宅ストック活用とまちの再生』という視点での建築・不動産を一体的なビジネスとして広げていくことです。空家活用の相談をお待ちしております。

株式会社ナイス　地域開発事業部

西西成区長橋3-6-33
TEL：06-6563-1156
FAX：06-6563-1157

[飯田沙保里]急に暑くなって、夏日を観測しているところもちらほら…雨が止んだとおもったら、いきなり夏というのは、体に堪えます。

[高橋静香]いよいよ次号で100号！
2年前のリニューアル号から携わって、この節目に立ち会えるのはとてもうれしです。続けることで見えてくるものの大切さを実感します。

いい湯かげん

政治闘争は矛を収めるものなのに

この拙文が読まれる頃には、大阪市がなくなるかが決まっているのだろう。ボクは、去年の暮れからフェイスブックを始めたんだが、「友だち」ってどうしても偏ってしまうから、政治とか福祉とかの関係者の「近況」を知ることになる。そして、ふと気づいたのは、多分政治主張が違ったり、ライバル会社員だったりするのだろうが、みんな「いい奴、いい人」だということ。「友だち」つながりで初対面の人と遭遇した時も、なんだか昔からの知り合いだったような親近感を覚えたこともある。

ところで、YouTubeで橋下市長の演説を聴いてると、過激過ぎて当惑してしまう。「政治闘争は生きるか死ぬか、世が世なら爆弾飛んでる」なんて。彼は、ホントにそう思って「都構想」に政治生命を賭けているのだろう。でも、白井聡さんと内田樹さんの対談集『日本戦後史論』を読んだら肩の力が抜ける。中核と革マルは政治闘争の末内ゲバまでやったが、周りから見るとラグビー部とバスケット部の違いでしかない、所詮イデオロギーなんてそんなもの。でも、イデロギーは必要で、55年体制の時には、自民党と社会党がヤーヤーとやりあって、ある程度までやるとお互いの顔が立ったということで、条件闘争になったが、いまの政党はイデオロギーがないから、ひたすら物取りになってお互い譲れなくなってしまっている。

橋下市長は、シンガポールが「大阪都」のモデルかと思わせる演説をするが、シンガポールの国是は「経済成長」で、統治システムも教育もメディアも、すべての社会制度が経済成長を基準に適否の判断がなされる、わかりやすい国だ。でも、建国以来一党独裁で、治安法で令状なしに逮捕拘禁でき、労働組合は政府公認のものしかないなど、きわめて効率的なトップ・ダウンシステムの国だ、と内田さんは語っておられる。

ボクは、自治法が改正された時から、ヤーヤーとやりあった市長と市議会が、「府市統合本部」と「総合区分権」で矛を収めてくれると期待したが、そうならなかった。効率化や民営化には一理あるに決まっているが、まさか大阪の「シンガポール化」まではゴメンだ。でも、橋下市長は、市役所労組に沈黙を強制したし、未遂だったが、地域振興町会への制裁を指示した。橋下さんが中核革マルに見えてしかたない。時が経って悔いても、その時にはもう大阪市には戻れない。けっして橋下市長だけのせいじゃないが、こんな住民投票は「二択」じゃなく「一択」で、止めるべきだったと悔やむ。

ボクは、橋下さんも茶目っ気あるし、柳本顕さん（自民党市議）も「いい人」だと思うし、市役所労組の委員長も若い頃から知っているが「いい奴」だった。ヤーヤーやりあっても、矛は収めらるべきだったと思うが、大阪の政治闘争は、フェイスブックのようにはいかないらしい。

㈱ナイス代表取締役
冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[平川隆啓]今回の表紙写真のもう一つの候補も緑。大阪市では珍しい湿地が、西成と阿倍野の境目、上町台地の崖下に。ひっそりと今も湧き水が出ています。

[田岡秀朋]メーデーが祝日になると・・・
4/30と5/2も国民の休日になって、超大型連休が誕生するのになる。

ある日のmon

今月の花：しゃくなげ

花言葉「威厳」「警戒」「危険」

元々は、ヒマラヤなどの高山地帯に咲いていた花です。この花を採るために危険がともなうのでこんな花言葉がついたようです。

花屋のとなりのおじさんのお店が先月で閉店しました。30年以上も朝早くからがんばっておられたのですが、もう、80歳近くなっておられたので、残念です。私が初めてこの町に来た時に一番に、いろいろ教えてくれたおじさんです。いつもやさしくして頂いたのに、また寂しくなる。

（なんばひとみ）

ピースのつぶやき

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『見抜かれちゃった！』
犬はがまん強いんだって？
私はがまん弱いです：
犬は泳ぎが大好きだって？
私は泳げません：
犬は用心ぶかいんだって？
私は優しいほうがいい：
犬は寒さに強いんだって？
私はコタツが大好きです：
この世にたくさんの
私の仲間が生きている。
生まれ育ちもみんな別々、
個性もみんな違うはず。
私は私らしく
毎日を過ごしたいって
お母さんに話したら、
わかっているよって、やさしく
うなずかれましたワンワン：

赤井まゆみ

枝葉末節

『映画』

hidarmakiの佐々木です。
５月の発句です。

杏食み古き統治の会話なく

映画を見ることは小さいころからあこがれの時間だった。しかし映画を見るお金などなく、見るのは稀で、だからこそ映画のあらゆることに興味があった。近所の民家の一部には簡易な映画館の掲示板がこさえられ、そこにA3サイズくらいの映画ポスター（写真）が貼られていた。1週間に1回は映画の上映プログラムが変わる。週1に自転車に乗ったおっさんが糊と刷毛を持ち、脇に丸めたポスターを抱え、掲示板のポスターに糊を塗りつけ、その上に次回上映のポスターをのせ、刷毛でしっかり抑えて定着する。

私ら子どもたちは、おっさんがポスターを貼っている間、その作業を真剣になながめている。おっさんがポスターを貼り終えると自転車に乗り、次の民家や商店の軒先へとポスターを抱えて移動して行く。もちろん看板は特定の映画館の専用掲示板である。それぞれの映画館の掲示板を設置している家が多くあった。掲示板を設置する家は、その映画館と設置の契約をし、映画チケットか何かを見返りにもらっているのだ、とは子どもどうしでよく話した憶測の会話であった。私がよく見ていた掲示板は、駄菓子屋の玄関先にあった。

私の家に一番近い映画館は「南田辺東宝」で、現在のJR南田辺駅ウラに建っていて、すぐそばに桃ケ池公園（当時は股ケ池）があった。私のとくに記憶しているポスターでは、森繁久弥主演の『夫婦善哉』『猫と庄三と二人のをんな』（後者の「をんな」がなぜ「おんな」ではないのか、とても不思議であった）。そして『ゴジラ』であった。

それにしても、シニア料金で入場料が半額近くにもかかわらず、映画館にとんと通わなくなった。近年まではひと月の間に10作品前後は見ていたはずだが、いまでは年間で4、5本見ればいいところだろう。個人的なことで、どうでもいいことだと思われそうだが、なぜなのか考えてみた。

先ずたくさんの人いきれの中へ、自分を押し込めることにうっとうしさを感じだした、というのが理由のひとつだ。つまり映画館にむかうのが面倒くさい。それでも映画そのものへの興味は絶えてはいないし、映画館への郷愁もある。ただ、大きな器のなかにたくさんの劇場を作り、その空間の中で映画を選択させるシネマコンプレックスには、人間を無機質にする気持ちの悪さを感じていて、ついに近寄らなくなってしまった。

売れ行きのいい製品なら売れる場所を増やすというように、シネコンでは人気作品を複数のスクリーンで、同時上映することもでき大量動員できる。しかもロードショーが終わるやいなや、評判のよい作品の複製化をはかり、DVDやブルーレイの販売をキャンペーンし、営利の手を休めない。映画という、人の官能を刺激する文化や芸術としての技術を、ゆたかな資本力と市場性によって、薄っぺらな動画に変えてきたような気がする。

そして、シネコンといえばフィルム映像での上映ではなく、デジタル配信がほとんどだ。つまりこれまでは、映写機にフィルムをセットして、映像を見ることが映画であった。現在は、精度の高いデジタルカメラで撮影された映像を電子化したデーターにして、通信衛星や光ファイバーなどで映画館に配信するシステムだ。従来のフィルム上映ではない。アナログフィルムの持つナチュラルな雰囲気や、モノクロームフィールムの持つ陰影のゆたかさに現在のデジタル化を嘆く映画ファン―おそらくフィルム世代の一定年齢を超えた人たちや、CG化、3D化した現在の映画に、それほど魅力を感じない目の肥えた人たち―も多いのではないかと想像する。

私もどちらかといえば、幼いころから映画をフィルムで見てきた世代なので、時代や世相に、映画という文化が影響を与え、あるいは与えられてきたことを知ることも少しはある。しかしフィルムがデジタル化しても、アナログフィルムへのこだわりはさほどない。

映画館に通わずともDVDで一人見の楽しさを味わうことができる。要は映画の面白さだ。

映画館に通わなくなった大きな理由は、映画そのものが面白くなくなったと感じるからである。映画をつくる人たちの息づかいというか、志のようなものがいつの間にか伝わりにくくなった。映画人より私が年齢を重ねすぎてしまったせいかもしれない。

hidarimaki

思いたったら！
にしなりカレンダー

「ぽかぽか陽気に誘われて」編

遊びを満喫

「子ども元気まつりin西皿池公園」

今年もやってきました！ 子どもたちが思いっきり遊べるイベントとして、12回目を迎えます。地域の力を合わせて、いろんな遊びのコーナーや、フリマ、かえっこバザールなど盛りだくさんの子どもイベントです。

日時：5月24日（日）11:00-15:00
場所：西皿池公園（西成区潮路1-4）
問合：わが町にしなり子育てネット
（事務局：子ども子育てプラザ）
TEL：06-6658-4528
WEB：http://haginet.2.pro.tok2.com/asopa.html

気軽にふらっと

マナビバ@市民交流センターにしなり210号室

おしゃべりや悩み相談、ボードゲーム、パソコンやタブレット、学習に関するサポートや就職サポートなどなど、高校中退者のためのフリースペースが西成にOPEN！開いている日は、いつでも立ち寄れて、自由に過ごせます。

日時：毎週火・木曜日10:00-16:00
対象：高校中退者※不登校の生徒さんや中卒後進路未決定の方でも大丈夫です
場所：大阪市立市民交流センターにしなり210号室
（西成区長橋2-5-33）
問合：一般社団法人ヒューマンライツ教育財団
（担当：菊池）
TEL：06-6568-1840
MAIL：info2@human-ref.jp

本を片手に

「まちライブラリー」オープン！

芦原橋の職業訓練校「A´ワーク創造館」内に、参加型図書館「まちライブラリー」がオープン！ 働くこと・仕事・職業に関する本を集めていきます。本の紹介イベント「本、仕事、人生～私の『仕事観』を変えたこの1冊～」も開催。

日時：5月17日（日）13:00-15:00
場所：まちライブラリー@A´ワーク創造館
（浪速区木津川2-3-8）
参加：500円
※ご自身のイチオシ本をご持参ください。
※本は可能であれば寄贈していただきますが、もちろん紹介だけでも結構です。
TEL：06-6562-0410
MAIL：office@adash.or.jp
WEB：https://www.facebook.com/machilibraryadash

アートでお散歩

「にちにち　～アトリエコーナス作品展～」

西成のギャラリーで、阿倍野にある小規模福祉作業所「アトリエコーナス」の作品展を開催。町家を改修したアトリエでは、障がいを持ったメンバーが、日々（にちにち）色んなアートを生みだしています。本展では9人の作品とその「にちにち」を展示します。

日時：5月23日（土）-31日（日）　13:00-19:00
場所：あおぞらアトリエ（西成区岸里東1-6-7）
TEL：06-6659-8892
http://www.ashitanohako.com/hako/

あとがき

4月に入って雨が多かったのですが、一転、暑い日が続きますね。
2年前に「なびvol.74」から編集をお手伝いするようになって、毎月の締め切りにハラハラ・ドキドキしながら、気がつくと99号。
余裕があるときも無いときもいつもギリギリで、スタッフの産休も挟みながら、どうにか100号という区切りが見えてきて少しほっとしています。
（四井）

なび5月号（vol.99）
発行日：2015年5月1日（創刊日：2007年1月1日）
発行：株式会社ナイス
発行人：代表取締役 冨田一幸
印刷：有限会社前山企広
住所：大阪市西成区長橋3-6-33　電話：06-6563-1156
E-mail：info@nice.ne.jp
url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：佐々木敏明
編集：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里
イラスト：hidarimaki
デザイン：高橋静香

表紙の写真：「楠の若葉と香りの季節」
天神ノ森天満宮（西成区岸里東）で撮影